

ふるさとツアー

ふるさとへの思いを懐かしみ、心の許せる人とふるさとを語り
出来れば訪れる機会をもたら・今回はそんなふるさとツアー
を実施されている青木さんに登場頂きました。

【国東半島】九州の右上にある拳骨状の半島である。大分空港から
海岸線を北へ走ると世帯数五千、人口約一万四千人の町に入る。
田園地帯の一角に桶の太木で覆われたカヤ葺きの家があるが、台湾
から引揚げ後、小学生の中ほどから高校時代を過ごした私の実家
である。

祖父まで百姓であった。両親がいなくなつて十数年、その間は無住で
あつた。鹿屋にならなかつたのは近所の人たちが風を入れてくれた
おかげである。
山あり川あり海あり石仏あり。
私の「林住期」にふさわしい居場
所。しかし、故郷を出て45年。
この町に帰つて今までの経験を
活かす道はあるか。不便さを楽
しむ度胸はあるか。いくばくか
の田畑があるが、トマト
や大根栽培は即席の知
識では育たない。では、
ITを駆使して事業を
興し、高齢化と少子対
策に知恵を絞る町を元
気づけるか。そんなこと
をあれこれ思索し
ながら、ふるさと
往來を続けている。
国東日記はその記
録である。



国東日記

青木 弘

某月某日

「竹が露出していますね。台風は大丈
夫ですか?」

あと何日で熟れるかなと色気づいたサク
ランボの木を見上げていた。よくにチカさ
が語りかけてきた。屋根の痛みを心配
してくれているのだ。

ぼくぼくになっていた屋根を葺いてもら
つたのは四年前だが、手当てをしなかった
部分はやせ細る一方。この前、屋根に登
つて雑草を抜こうとしたら根っこが持ち
上がってきた。カヤは確実にとりに違えり
つあるのだ。

室内を整備し、囲炉裏がある生活を楽
しめる状態にしたが、建物を覆う屋根が
だめになればおしまいである。ふるさと
往來で一番気になっていることである。

竹の露出は危険信号である。そこで、
隣町に住む親方を訪ねて修理をお願い
したが足腰を痛めていた。半島最後の屋
根師は隠居していたのだ。界内には葺き
師はいないが遠方だから費用はピンと跳
ね上がる。材料のカヤの値段も高くなつ
た。アア、これで終焉かと思いいながら
頼み込み、ようやく棟梁の親戚が秋口
に作業をしてくれることになった。自治
元年の善書記録がある。アバヤヤ御殿。
最期の葺き替えになりそうだ。
そのあとどうするか。雨漏りしてきた

ら室内にテントを張つて暮らす、トタン
屋根をかぶせる、丸太小屋を建てる、更
地にして記念碑を建てるなど選択肢が
あるが、人間の「PRK」よりは長持ちし
そうだから、先々の心配をするのはよそ
う。

「二重(住)生活をやめて晴耕雨読の生
活をすればいい」と勧めてくれる人がいる
が、これは家内が許可しないからダメで
ある。資金を稼ぎたいが金儲けの才覚は
ない。ジャンボ宝くじを当てにしている
が、こちらも運がない。

頼みの綱は「風の会」ネットワークであ
る。飯におひとり千円の寄金を仰ぐと百
人で十万、それぞれが十人を確保すると
百万、更に十人に伝えると千万になる。
それを資金に茅葺の家を完全に整備し
て、夏は井戸に湧出したスイカを食し、冬
は囲炉裏を囲んで一献という「風の会」
御用達。笑窪染菜の家。はいかがなもの
か。

近くには弥生時代の遺跡を再現した公
園や海も山も近い。ダメさんの芦屋17で
というコレクティブハウジングもいいが、こ
ちらは西方浄土により近い。あせ道を歩
けば石の仏さまが微笑みかけてくる。

「さあ、行きましょう。きようは茅葺き資
金稼ぎの最終日ですよ。夢から覚めてく
ださい」。追っかけの「山田せつ子さん
が笑っている。



某月某日

国東半島敷か所をめぐつたメキシコ
音楽奏者アルバート・チカとの「国東半
島・歌の巡礼Ⅲ」は県立高校の特別授業
でおしまい。全校生徒二百七十名と全
職員が参加する授業のタイトルは「突撃
ライブイン 双国(高校の名前)」であ
る。お礼の一部で何束のカヤを購入でき
るか、保証はない。

筆者 友遊会世話人代表
豊中市在住 青木弘さん

(註)筆者の実家は県立大分県東国東郡国東
町田深且過にある茅葺の家。チカさんと
ともに三年続けて囲炉裏コンサートなど
をおこなっている。文中の屋根葺きは九月
末の予定。

追っかけ日記

山田せつ子の

私はメキシコの陽気さと古い歴史
が大好きで度々訪れております。な
かでもマルガリッタを口にしなが
メキシコ演歌のマリアッチを聞くのが大
好きです。この好きな音楽を私の里
の古家の囲炉裏端で聴けるという事
に耳を疑いました。

私はすぐに飛びつきました。青木
さんとチカさんのコンには私は夢と
愛を見たのです。私の追っかけが始
まりました。

古い造り酒屋を活用した芸術サロ
ンや周防産をのぞむリゾート地のス
テージなど舞台背景も気に入りました。
これらのコンサート実現が人
々の夢と愛の結晶である事も知り
ました。感動しました。

帰阪後、高校の特別授業を企画
された同校の宮永英次先生から、
生徒たちが生演奏を聴いて感じたリ
ポートが、送られてきました。皆、
純真で可愛い子たちです。新聞など
で報道されている同年齢の子ともた
ちと、余りにも違うので驚いており
ます。環境がそうさせるのでしょうか。
か?

あの高校で感じた事は、私の頃と
殆どなにも変わっていないという事



です。校舎も空気も香りも色も何
もかも同じに見えました。時間がス
トップしているのです。だから何も
頭張らなくてもいいのです。そのま
までいいのです。
昔のまま、自然体のままで十分でし
た。変身も染色もなにもなしで生
きられるのです。素晴らしいと思
いました。

この「縁で私は多くの友をいただ
いて帰阪いたしました。また静けが
覚めます。
(大阪市在住・短期大学非常勤講師)

コレクティブハウジング

5月度友遊会でダメさんこと小玉文
吾さんのお話をお聞きして、風の会
の理念と共通点が多いことに意を強くし
ました。以下は小玉さん達が描く目標
です。――編集部――

「ここに住む限り孤独はない」を合言葉
に、芦屋市打出小椋町コレクティブハ
ウジングを6月に完成させた。住まい
の基本理念をはっきり表しているのが
マンションの名称である。「芦屋17℃
」とは「ひとりの一人が一度ずつの体温
を持ち合わせれば17世帯で17℃の温かさ
になる」という考えだ。

特徴は、住民同士が共用するスベー
スの活用もできることながら、NPOの
活動に住民が参加し、広く地域住民に
共有スペースを開放することである。
そのためにLISA(生活相談員)を常駐
させテイスーパーや子育て支援までも
視野に入れる、その活動に芦屋市も支援
を約束している。

今ひとつの特色は、高齢者専用住宅に
はしない、ということ。各世代の居住
者を意識的に集めている。現在、居住
が決まっている人は、妊婦を含み幼児
、小学生から中堅世代、70代まで多彩
な顔ぶれなので嬉しい。

「どうせ作るなら日本一のコレクテ
ィブハウジングを！」が目標。住民の
絆と知恵と体温を集めて勝負したいと
考えている。

「芦屋17℃理事長」小玉文吾



県立高校の特別授業
5月3日 大分合同新聞

「国東半島敷か所をめぐつたメキシコ
音楽奏者アルバート・チカとの「国東半
島・歌の巡礼Ⅲ」は県立高校の特別授業
でおしまい。全校生徒二百七十名と全
職員が参加する授業のタイトルは「突撃
ライブイン 双国(高校の名前)」であ
る。お礼の一部で何束のカヤを購入でき
るか、保証はない。